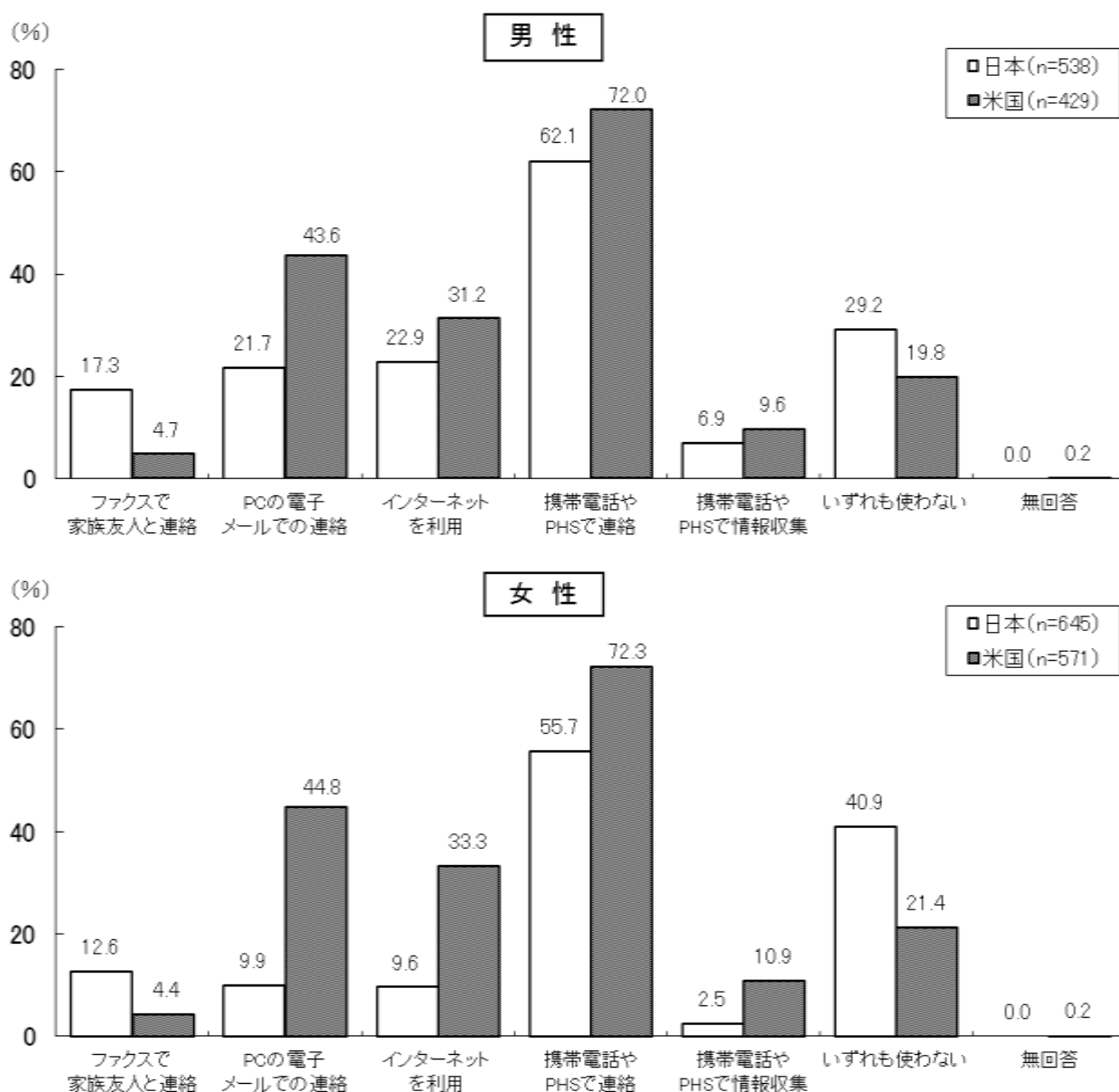


図 12-20 情報機器使用状況（複数回答）（2010年）



ここでは図に示していないが、高齢者が情報機器を利用していない理由の第1位は、日本・米国ともに「必要性を感じないから」（日本は 74.6%、米国は 80.7%）で最も多く、理由の第2位は、「使い方がわからないので、面倒」（日本は 26.8%、米国は 31.4%）で、日本・米国ともに、世代の効果が回答に反映されていると考えられる。高齢者へ情報機器の普及を図る場合は、「使い方がわからない」という点が課題となる。さらに、第3位の理由としては、米国では「お金がないから」（25.1%）が挙がっており、日本の回答の 8.3%と比べると 16.8 ポイントの差が見られ、情報機器を利用しな

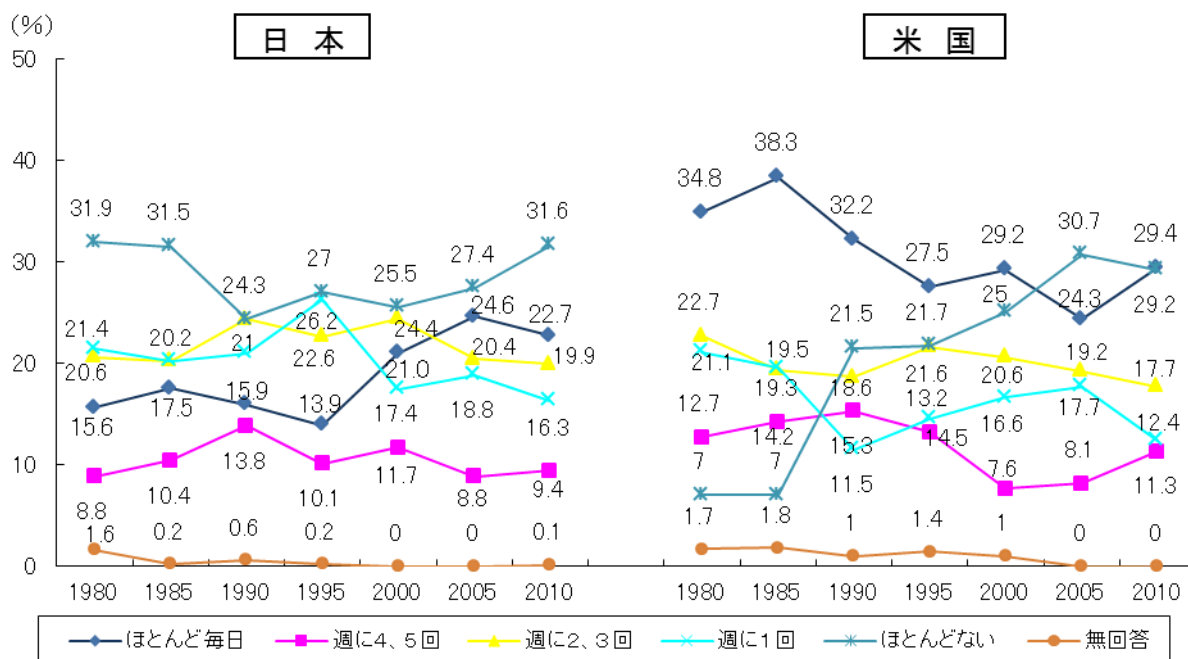
い理由項目の中で、日本と米国間の差が最も大きかった。

## 8. 社会との関わり・生きがい

### (1) 近所の人たちとの交流 (Q45)

図 12-21 は、「週に何回ぐらい、近所の人たちと話をしますか」について単一回答で答えてもらった結果を時系列で示したものである。日本は、「ほとんどない」の回答が第1回調査(1980年)以来、ほぼ一貫して最も多い回答であったが、米国は「ほとんど毎日」の回答が、第1回調査から徐々に減ってきているものの、今回調査(2010年)で最も多い回答であった。また、日本の回答で、第1回調査から徐々に上がってきている回答は「ほとんど毎日」であるのに対し、米国では、「ほとんどない」の回答が急速に上がってきているのが特徴である。「週に4、5回」の回答は、日本・米国ともに、7%から15%の間で落ち着いている。

図 12-21 近所の人たちとの交流 (2010年)



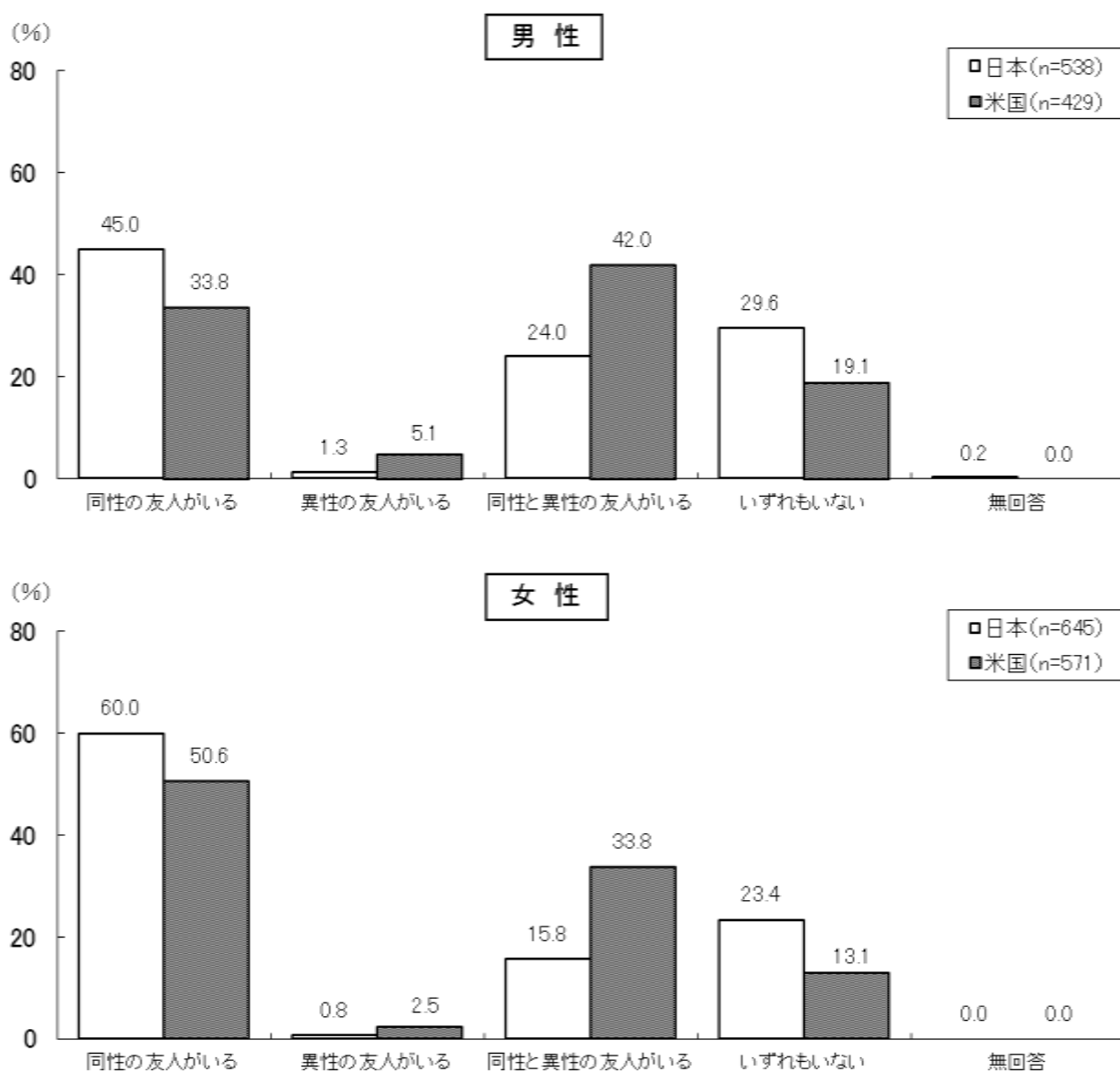
### (2) 親しい友人の有無 (Q47)

図 12-22 は、「家族以外に相談あるいは世話をし合う親しい友人がいるか」について単一回答で答えてもらった結果を性別に示したものである。日本男性の回答で最も多かった

のは、「同性（男性）の友人がいる」（45%）で、米国の回答（33.8%）に比べて多かった。2番目に多かった回答は「いずれもない」（29.6%）で、米国の回答と比べると10.5ポイント多かった。米国男性の回答で最も多かったのは「同性（男性）と異性（女性）の友人がいる」で42%と、日本の回答と比べて18ポイントも多く、日本と米国間の回答の差が最も大きかった。日本男性は、家族以外に相談したり世話をし合ったりする親しい友人がだれもない人が、今回調査（2010年）で約3割いたことから、日本の男性高齢者の社会とのつながりは、米国と比べると弱いと考えられる。今後ますます団塊の世代が労働市場から引退して地域にもどってくることを考えると、**図 12-19** でみたように、ボランティア活動や社会活動にも約5割が参加しておらず、また、親しい友人もいないとなると、今後どうやって日本の男性高齢者が社会とつながっていくかが大きな課題になると考える。

日本女性の回答で最も多かったのは、「同性（女性）の友人がいる」（60%）で、米国の回答（50.6%）に比べて多かった。2番目に多かった回答は男性同様「いずれもない」（23.4%）で、米国の回答と比べると10.3ポイント多かった。米国女性の回答で最も多かったのは「同性（女性）の友人がいる」で50.6%、2番目に多かったのは「同性（女性）と異性（男性）の友人がいる」の33.8%で、日本と米国の間の差がこの項目で最も大きく、米国が日本より18ポイント高かった。

図 12-22 家族以外の親しい友人の有無（2010年）



## 9. 不安・関心・満足度

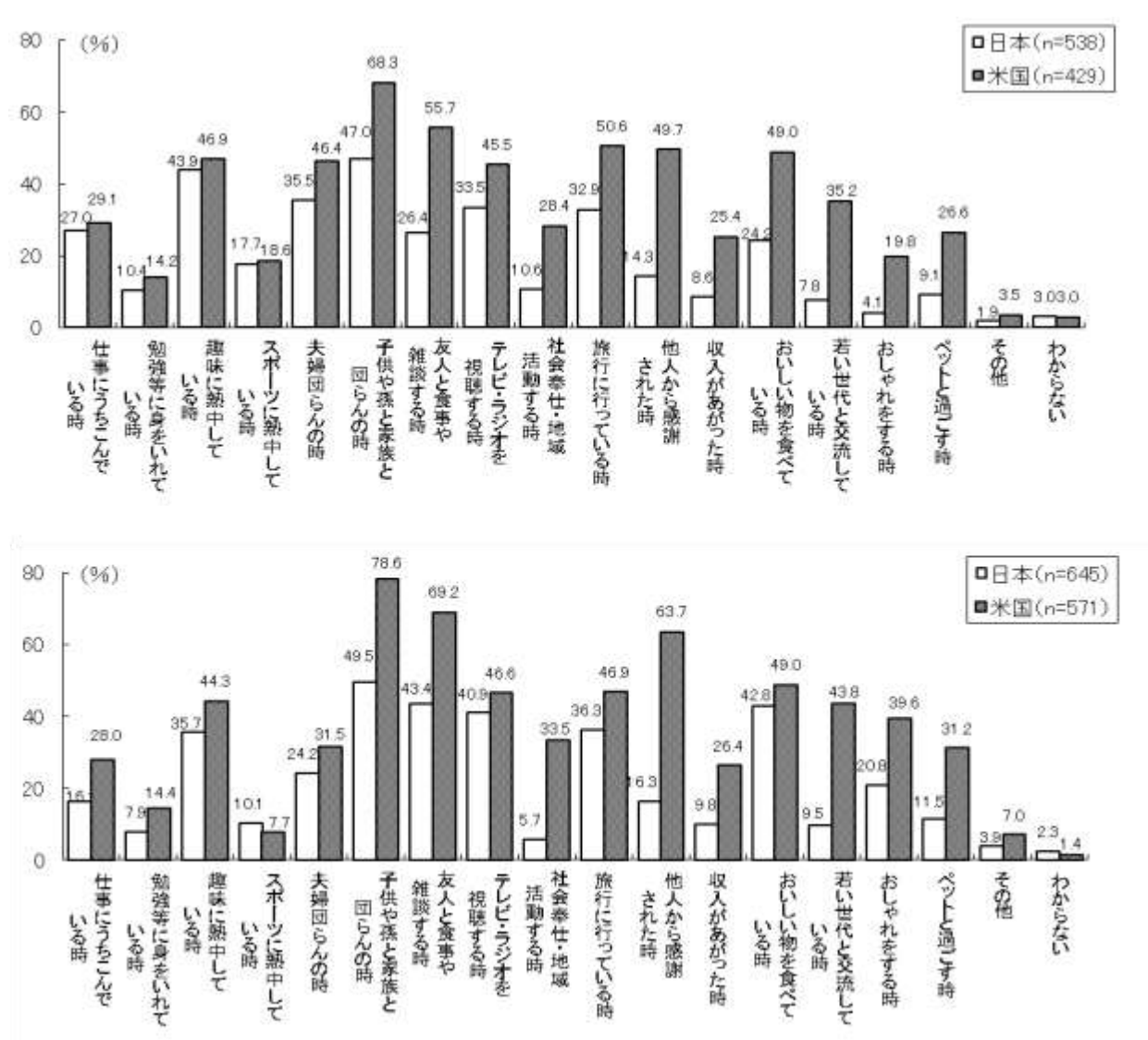
### (1) 生きがいを感じる時 (Q56)

図 12-23 は、今回調査（2010年）で、「生きがい（生きていることの喜びや楽しみを実感すること）を感じる時はどのような時ですか」に対する質問に、複数回答で答えてもらった結果を性別に示したものである。日本の高齢者の回答が、米国の高齢者の回答を上回った項目は女性の「わからない」（日本 2.3%、米国 1.4%）のみで、あとの項目は全て、男女共に米国の回答が高かった。特に、両国で最も大きい差が見られたの

は男女共に「他人から感謝された時」で、男性で 35.4 ポイント、女性では 47.4 ポイントの差が見られた。

日本男性で、生きがいを感じる項目で最も多い回答が得られたのは、「子供や孫と家族団らんの時」(47%)で、2番目に回答が多かった項目は「趣味に熱中している時」(43.9%)で、次に「夫婦団らんの時」(35.5%)であった。一方、米国の男性が生きがいを感じる項目で最も多かった回答は、「子供や孫と家族団らんのとき」(68.3%)で、2番目は「友人と食事や雑談をする時」(55.7%)、次に「旅行に行っている時」(50.6%)となり、第2位以降の項目に日本と米国の差がみられた。

図 12-23 生きがいを感じる時（複数回答）（2010 年）



次に、女性についてみると、日本の女性で生きがいを感じる項目で最も多い回答が得られたのは、「子供や孫と家族団らんの時」(49.5%)で、2番目の項目は「友人と食事や雑談をする時」(43.4%)であった。3番目は「おいしい物を食べている時」(42.8%)であった。米国の女性の生きがいを感じる項目で最も多かった回答も、日本と同じく「子供や孫と家族団らんのとき」(78.6%)で、日本より29.1ポイント高かった。2番目も日本と同じく「友人と食事や雑談をするとき」(69.2%)で、「他人から感謝された時」(63.7%)が上位3項目に入ってきた。米国は、子供や孫との同居率が低く、「子供や孫とは時々会って食事や会話をするのがよい」(66.5%)(**図 12-4** 参照)と回答した高齢者の割合が最も多かったが、だからこそ、男性も女性も、子供や孫との時間を一番楽しみにし、生きがいを感じているのではないだろうか。日本と米国の生きがいを感じる項目数の一人当たりの平均値を算出したところ、日本の平均値は3.7個、米国は6.4個となり、米国の高齢者の方が、生きがいを感じることでできる項目数がかなり高かった。

**図 12-24** は、今回調査(2010年)で、「生きがい(生きていることの喜びや楽しみを実感すること)を感じる時はどのような時ですか」に対する質問に、複数回答で答えてもらった結果を、一人暮らしか、一人暮らしでないかに分けて示したものである。

一人暮らしの高齢者は、日本は「テレビ・ラジオ視聴する時」(45%)が最も多く、次が「おいしい物を食べている時」(35.8%)であった。米国の一人暮らしの高齢者は、「友人と食事や雑談をする時」(67.7%)の回答が最も多く、次に「子供や孫と家族団らんの時」(64.5%)、「他人から感謝された時」(58.7%)が続いた。

一人暮らしでない高齢者については、日本は「子供や孫と家族団らんの時」(50.6%)で最も多い回答で、次に「趣味に熱中している時」(40.1%)、「テレビ・ラジオ視聴する時」(36.4%)と続いた。米国の一人暮らしでない高齢者の回答で最も多かったのは、「子供や孫と家族団らんの時」で80%、2番目は「友人と食事や雑談をする時」(60.8%)、次に、「夫婦団らんの時」(59.0%)、「他人から感謝された時」(57.1%)が続いた。

一人暮らしと一人暮らしでない高齢者の、生きがいを感じる項目数の一人当たりの平均値を算出したところ、一人暮らしの場合、日本の高齢者は3.1個、米国は5.8個となり、米国の高齢者の方が、生きがいを感じることでできる項目数が多かった。同様に、一人暮らしでない高齢者の場合、日本の高齢者が生きがいを感じることでできる項目数の平均は3.8個、米国は6.8個で、米国の高齢者の方が生きがいを感じることでできる項目数が多かった。また、日本・米国共に、一人暮らしの高齢者の方が生きがいを感じる項目が少な